

四半期報告書

(第84期第1四半期)

自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日

不二製油株式会社

E00431

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 6
- (2) 新株予約権等の状況 6
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 6
- (4) ライツプランの内容 6
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 6
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 7

2 役員の状況 7

第4 経理の状況 8

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 9
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 11
 - 四半期連結損益計算書 11
 - 四半期連結包括利益計算書 12
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 13

2 その他 18

第二部 提出会社の保証会社等の情報 19

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第84期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	不二製油株式会社
【英訳名】	FUJI OIL CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 海老原 善隆
【本店の所在の場所】	大阪府中央区西心齋橋二丁目1番5号 （日本生命御堂筋八幡町ビル内） 同所は登記上の本店所在地であり、本社業務は下記本社事務所で行っております。 大阪府泉佐野市住吉町1番地
【電話番号】	072-463-1081
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 山中 敏正
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田三丁目5番27号（住友不動産三田ツインビル西館内）
【電話番号】	03-5418-1850
【事務連絡者氏名】	東京支社業務グループリーダー 三宅 大樹
【縦覧に供する場所】	不二製油株式会社東京支社 （東京都港区三田三丁目5番27号（住友不動産三田ツインビル西館内）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪府中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第83期 第1四半期連結 累計期間	第84期 第1四半期連結 累計期間	第83期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高（百万円）	53,510	59,169	222,714
経常利益（百万円）	4,570	3,842	16,243
四半期（当期）純利益（百万円）	2,997	2,671	9,783
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	3,086	3,580	6,701
純資産額（百万円）	100,728	105,952	103,220
総資産額（百万円）	174,473	182,023	174,435
1株当たり四半期（当期）純利益金額 （円）	34.87	31.07	113.81
潜在株式調整後1株当たり四半期（当 期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	54.8	55.3	56.4
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	2,181	△2,162	13,536
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,814	△1,388	△9,214
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,919	4,448	△5,500
現金及び現金同等物の四半期末（期末） 残高（百万円）	6,947	7,849	6,842

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第83期（平成23年3月期）の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第83期第1四半期連結累計期間及び第84期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第83期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による直接的な被害に加えて、原子力発電所事故による電力不足や放射性物質問題など、今後の経済活動へ大きく影響を及ぼす懸念が強まっております。また、デフレ基調・円高傾向は長期化の様相を見せており、雇用環境の低迷と相まって、引き続いて厳しい経済情勢が予測されております。

当社グループを取り巻く食品業界でも、経済情勢不安による消費者の節約志向・低価格志向は依然強く、また、主要原材料価格や重油価格等が高値で推移するなど、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループは新中期経営計画「Global & Quality 2013」を掲げ、「グローバル経営の推進」、「技術経営の推進」、「サステナブル経営の推進」を方針として、顧客ニーズに即した製品開発、高機能素材の供給、生産コストの削減に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は591億69百万円（前年同期比10.6%増）、営業利益は39億11百万円（前年同期比13.5%減）、経常利益は38億42百万円（前年同期比15.9%減）、四半期純利益は26億71百万円（前年同期比10.9%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(油脂部門)

国内では、主要原材料価格の上昇により採算は悪化しましたが、ヤシ油・パーム油・調合油・チョコレート用油脂が好調に推移し増収・増益となりました。

海外では、チョコレート用油脂は、アジア・北米での販売数量減に加えて、販売価格がココアバター相場下落の影響を受けて値下がりし減収・減益となりました。パーム油は原材料価格の上昇により売上高が前年同期を上回り、海外全体では増収・減益となりました。

以上の結果、当部門の売上高は257億63百万円（前年同期比24.3%増）、セグメント利益（営業利益）は13億86百万円（前年同期比18.5%減）となりました。

(製菓・製パン素材部門)

国内では、スイートチョコ・カラーチョコは、流通菓子・パン用が減少し、業務用チョコレートは減収・減益となりました。マーガリン・ショートニング・フィリングはパン用が増加し、売上高は前年同期を上回りましたが、原材料価格の上昇により減益となりました。製菓・製パン素材輸入販売は、粉乳調製品の売上高が増加し、部門全体では、増収・減益となりました。

海外では、業務用チョコレート、マーガリン・ショートニングの東南アジアでの販売が好調に推移して、売上高は前年同期を上回りましたが、原材料価格上昇により採算が悪化し、減益となりました。

以上の結果、当部門の売上高は238億97百万円（前年同期比3.3%増）、セグメント利益（営業利益）は18億14百万円（前年同期比22.3%減）となりました。

(大豆たん白部門)

大豆たん白素材は、米国ソレイ社との合弁解消により水産用途、健康食品用途が減少しましたが、冷食・惣菜用途、発酵培地用途、加工食品用途が好調に推移し、全体では減収・増益となりました。

大豆たん白機能剤の売上高は、前年同期比横這いとなりました。

大豆たん白食品は、即席麺市場・弁当給食市場向けが増加して売上高は前年同期を上回りました。

豆乳の売上高は前年同期を上回り、利益面では黒字に転換しました。

以上の結果、当部門の売上高は95億7百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は7億10百万円（前年同期比46.1%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ10億7百万円増加、前第1四半期連結累計期間末に比べ9億2百万円増加し、78億49百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で43億43百万円減少し、21億62百万円の支出となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益37億12百万円、減価償却費21億43百万円等による収入を、売上債権の増加額34億25百万円、仕入債務の減少額16億85百万円、法人税等の支払額24億57百万円等の支出が上回ったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で4億26百万円支出が減少し、13億88百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出14億36百万円等があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で63億67百万円増加し、44億48百万円の収入となりました。これは主に、短期借入金等による資金調達額の純増加額37億56百万円、長期借入による収入20億円、配当金の支払額10億31百万円による支出等があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

株式会社の支配に関する基本方針は、以下のとおりであります。

1. 基本方針の内容

平成22年5月7日開催の当社取締役会で決議された次の基本方針の内容をもって当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針といたします。

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、外部者である買収者から買収の提案を受けた際に、当社株主の皆様が当社の有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果その他当社の企業価値を構成する要素を十分に把握した上で、当該買収が当社の企業価値および株主共同の利益に及ぼす影響を短時間のうちに適切に判断することは必ずしも容易ではないものと思われまます。従いまして、買付提案が行われた場合に、当社株主の皆様の意思を適正に反映させるためには、まず、当社株主の皆様が適切に判断できる状況を確保する必要があり、そのためには、当社取締役会が必要かつ相当な検討期間内に当該買付提案について誠実かつ慎重な調査を行った上で、当社株主の皆様に対して必要且つ十分な判断材料（当社取締役会による代替案を出す場合もあります。）を提供する必要があるものと考えております。

また、株式の大量取得行為の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量取得行為の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社は、“「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。”を企業理念に、独自の技術開発に挑戦し、安心・安全で、様々な機能を持つ植物性油脂、製菓製パン素材、大豆たん白製品を国内・海外のお客様に広くお届けしています。同時に食品メーカーとして“安全・品質・環境を最優先する。”を経営の前提と位置づけ、安全な工場運営、厳格な品質管理、トレーサビリティシステムの拡充、環境保全への対応など積極的に取り組んでいます。

当社は、このような企業活動を推進する当社および当社グループ（以下「当社グループ」）にとり、企業価値の源泉である①独自の技術開発力、②食のソフト開発力による提案営業、③国内・海外のネットワーク、④食の安全を実現する体制および⑤企業の社会的責任を強化するとともに研究開発、生産および販売を支える従業員をはじめとする当社を取り巻く全てのステークホルダーとの間に築かれた長年に亘る信頼関係の維持が必要不可欠であり、これらが当社の株式の大量取得行為を行う者により中長期的に確保され、向上させられるものでなければ、当社グループの企業価値・株主共同の利益は毀損されることとなります。

当社は、当社株式に対する大量取得行為が行われた際に、当該大量取得行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が株主の皆様へ代替案を提案するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために交渉を行ったりすること等を可能とする仕組みが必要不可欠であり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大量取得行為に対しては、原則として会社法上の株主総会における株主の皆様ご意思等に基づき、当社は必要かつ相当な対抗をすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

2. 基本方針実現のための取組み

① 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は平成22年10月に創業60周年を迎え、コーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。不二製油」を制定いたしました。グローバル化した現在、当社グループは世界と対話し、世界の声を反映する「ものづくり」を通じ、「二つとない」価値を提供することで、健康で豊かな生活に貢献する企業グループを目指します。

また、当社グループは本年4月から新中期経営計画「Global & Quality 2013」をスタートいたしました。事業を取り巻く環境がグローバルに変化する中、

- ・「グローバル経営の推進」
- ・「技術経営の推進」
- ・「サステナブル経営の推進」

という基本方針のもと、「ニッチ、スペシャル、グローバルに、健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めていただく食の素材メーカー」を実現し、グループ一丸となって、より一層の企業価値の向上、株主共同の利益の最大化に取り組んでまいります。

② 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業に関する基本方針が支配されることを防止するための取組み

本プランは、当社が発行者である株券等について、①保有者の株券等保有割合が20%以上となる大量取得行為、または②公開買付けに係る株券等の株券等所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け③保有者が当社の他の株主との間で当該他の株主が共同保有者に該当することとなる行為を行うことにより、当該保有者の株券等保有割合が20%以上となるような行為（以下「大量取得行為」と総称します。）を対象といたします。これらの大量取得行為が行われた際、それに応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とするものであります。

当社の株券等について大量取得行為が行われる場合、当該大量取得行為に係る買付者等には、買付内容等の検討に必要な情報および本プランを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報や当社取締役会からの意見や根拠資料、これに対する代替案（もしあれば）について、株主に対する情報開示等を行います。

(i) 大量取得行為を行おうとする者（以下「大量取得者」といいます。）が、本プランに定める手続を遵守しない場合、(ii) 大量取得行為が、上記基本方針に反し、本プランの定める当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう事項に該当する場合、(iii) 大量取得行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の最大化に資する場合のいずれかに該当すると当社取締役会が判断した場合を除き、対抗措置を発動するか否かについては、原則として会社法上の株主総会において株主の皆様にご判断していただきます。但し、前記(i)または(ii)に該当する場合には、取締役会の判断により対抗措置を発動する場合があります。対抗措置は、新株予約権の無償割当て等会社法その他の法令および当社の定款により認められる措置といたします。対抗措置として、新株予約権の無償割当てを行う場合には、その新株予約権には、買付者等による権利行使が認められないという行使条件、および当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項が付されており、原則として、1円を払い込むことにより行使し、普通株式1株を取得することができます。

本プランの有効期間は、第82回定時株主総会終結の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。但し、有効期間の満了前であっても、当社株主総会または当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。

本プラン導入後であっても、対抗措置が発動されていない場合には、株主の皆様にご直接具体的な影響が生じることはありません。他方、対抗措置が発動され、仮に新株予約権の無償割当てが実施された場合には、株主の皆様が新株予約権行使の手続を行わないとその保有する株式が希釈化される場合があります。

なお、本プランの詳細については、当社のインターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.fujioil.co.jp/>）に掲載する平成22年5月7日付プレスリリースをご覧ください。

③ 具体的取り組みに対する当社取締役会の判断およびその理由

当社の中期経営計画は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、また本プランは、前述の記載のとおり、その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされ、かつ、企業価値・株主共同の利益を確保、向上させる目的をもって導入されたものであり、いずれも当社の基本方針に沿い、当社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は9億17百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はございません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ75億88百万円増加し、1,820億23百万円となりました。

主な資産の変動は、現金及び預金の増加10億5百万円、受取手形及び売掛金の増加40億26百万円、たな卸資産の増加21億4百万円、有形固定資産の増加4億46百万円、投資その他の資産の減少1億82百万円であります。

有利子負債（リース債務は除く）は、前連結会計年度末に比べ59億3百万円増加し、456億24百万円となりました。

主な純資産の変動は、剰余金の配当10億31百万円と四半期純利益26億71百万円により利益剰余金が16億40百万円増加したこと及びその他の包括利益累計額の6億50百万円の増加等であります。

この結果、自己資本比率は55.3%、1株当たり純資産は1,170円46銭となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	357,324,000
計	357,324,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	87,569,383	87,569,383	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	87,569,383	87,569,383	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	—	87,569,383	—	13,208	—	18,324

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,608,700	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 85,926,400	859,264	—
単元未満株式	普通株式 34,283	—	—
発行済株式総数	87,569,383	—	—
総株主の議決権	—	859,264	—

（注）「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株（議決権2個）含まれております。

② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式 総数に対する所有 株式数の割合（%）
（自己保有株式） 不二製油株式会社	大阪府泉佐野市 住吉町1番地	1,608,700	—	1,608,700	1.84
計	—	1,608,700	—	1,608,700	1.84

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,864	7,869
受取手形及び売掛金	41,514	45,540
商品及び製品	18,149	19,626
原材料及び貯蔵品	16,431	17,058
繰延税金資産	1,022	1,314
その他	2,300	2,133
貸倒引当金	△116	△93
流動資産合計	86,166	93,448
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,196	29,153
機械装置及び運搬具（純額）	27,828	27,696
土地	15,576	15,590
建設仮勘定	2,207	2,774
その他（純額）	1,320	1,359
有形固定資産合計	76,128	76,574
無形固定資産	1,325	1,369
投資その他の資産		
投資有価証券	8,121	7,940
繰延税金資産	745	734
その他	2,198	2,203
貸倒引当金	△254	△249
投資その他の資産合計	10,811	10,629
固定資産合計	88,265	88,573
繰延資産	3	1
資産合計	174,435	182,023

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,408	17,094
短期借入金	13,515	16,602
コマーシャル・ペーパー	3,000	4,000
1年内償還予定の社債	20	20
1年内返済予定の長期借入金	3,294	3,500
未払法人税等	2,705	1,500
賞与引当金	1,653	2,461
災害損失引当金	170	115
その他	5,351	6,356
流動負債合計	48,119	51,652
固定負債		
社債	5,060	5,060
長期借入金	14,831	16,440
繰延税金負債	843	585
退職給付引当金	1,756	1,799
役員退職慰労引当金	400	358
その他	203	174
固定負債合計	23,095	24,418
負債合計	71,215	76,071
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	76,399	78,039
自己株式	△1,745	△1,745
株主資本合計	106,187	107,826
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,040	979
繰延ヘッジ損益	159	△52
為替換算調整勘定	△9,063	△8,140
その他の包括利益累計額合計	△7,863	△7,213
少数株主持分	4,896	5,339
純資産合計	103,220	105,952
負債純資産合計	174,435	182,023

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	53,510	59,169
売上原価	41,844	48,184
売上総利益	11,665	10,984
販売費及び一般管理費	7,144	7,072
営業利益	4,520	3,911
営業外収益		
受取配当金	82	86
為替差益	155	—
補助金収入	—	43
その他	81	66
営業外収益合計	319	197
営業外費用		
支払利息	182	159
寄付金	58	65
その他	28	41
営業外費用合計	270	266
経常利益	4,570	3,842
特別損失		
固定資産処分損	65	40
投資有価証券評価損	—	55
災害による損失	—	35
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	37	—
特別損失合計	102	130
税金等調整前四半期純利益	4,468	3,712
法人税、住民税及び事業税	1,340	1,287
法人税等調整額	△65	△366
法人税等合計	1,274	921
少数株主損益調整前四半期純利益	3,193	2,790
少数株主利益	195	119
四半期純利益	2,997	2,671

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,193	2,790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△228	△61
繰延ヘッジ損益	△380	△212
為替換算調整勘定	496	1,057
持分法適用会社に対する持分相当額	5	6
その他の包括利益合計	△106	789
四半期包括利益	3,086	3,580
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,731	3,317
少数株主に係る四半期包括利益	355	263

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,468	3,712
減価償却費	2,289	2,143
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	55	29
受取利息及び受取配当金	△87	△95
支払利息	182	159
売上債権の増減額 (△は増加)	△630	△3,425
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,407	△1,564
仕入債務の増減額 (△は減少)	△209	△1,685
その他	551	1,055
小計	5,213	328
利息及び配当金の受取額	87	91
利息の支払額	△125	△125
法人税等の支払額	△2,993	△2,457
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,181	△2,162
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,778	△1,436
その他	△35	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,814	△1,388
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△757	2,756
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	—	1,000
長期借入れによる収入	—	2,000
長期借入金の返済による支出	△119	△244
配当金の支払額	△1,289	△1,031
その他	246	△32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,919	4,448
現金及び現金同等物に係る換算差額	71	114
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,480	1,011
現金及び現金同等物の期首残高	7,873	6,842
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	554	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△4
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 6,947	※ 7,849

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間
(自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

前連結会計年度において連結子会社であった今川株式会社は、当第1四半期連結会計期間において株式会社フクシヨクと合併したことにより、連結の範囲から除外しました。

なお、株式会社フクシヨクは株式会社フジサニーフーズ九州に社名変更いたしました。

当第1四半期連結会計期間において、ソヤファーム株式会社は清算手続き中であり、重要性が乏しいため連結の範囲から除外しております。

(2) 変更後の連結子会社の数

27社

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間
(自 平成23年4月1日
至 平成23年6月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度（平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当第1四半期連結会計期間（平成23年6月30日）

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在)
現金及び預金勘定 6,970百万円	現金及び預金勘定 7,869百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 Δ 22百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 Δ 20百万円
現金及び現金同等物 <u>6,947百万円</u>	現金及び現金同等物 <u>7,849百万円</u>

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,289	15.00	平成22年3月31日	平成22年6月23日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,031	12.00	平成23年3月31日	平成23年6月22日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	油脂	製菓・製パン 素材	大豆たん白	計		
売上高						
外部顧客への売上高	20,719	23,144	9,646	53,510	—	53,510
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,258	22	79	2,359	(2,359)	—
計	22,977	23,166	9,726	55,869	(2,359)	53,510
セグメント利益(営業利益)	1,700	2,334	486	4,520	—	4,520

(注) セグメント間取引消去によるものです。なお、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	油脂	製菓・製パン 素材	大豆たん白	計		
売上高						
外部顧客への売上高	25,763	23,897	9,507	59,169	—	59,169
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,217	27	232	3,476	(3,476)	—
計	28,980	23,925	9,739	62,646	(3,476)	59,169
セグメント利益(営業利益)	1,386	1,814	710	3,911	—	3,911

(注) セグメント間取引消去によるものです。なお、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	34円87銭	31円7銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,997	2,671
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,997	2,671
普通株式の期中平均株式数(千株)	85,961	85,960

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月12日

不二製油株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡沼 照夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 和人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 正司 素子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている不二製油株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、不二製油株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。